



みなさん、こんにちは。

業務紹介第12弾として土木分野のうち河川系の業務内容を、水管理・国土保全局河川計画課河川情報企画室 濱田係長（入省6年目）より語っていただきました！



執務室の前にて、「逃げなきゃコール」登録してください。

（水管理・国土保全局河川計画課河川情報企画室 濱田係長（入省6年目））

1. 河川分野の業務の国交省における役割を教えてください。

河川は、地球上の水が循環する中で生み出される自然の産物ですが、水を利用したり、洪水による被害を防いだりするために、人々が長い期間をかけて手を加えてきた人工物でもあります。国交省では、このような様々な顔を持ち合わせる河川に関する政策を立案するとともに、全国の重要な河川を直接管理することで、水害から住民のいのちとくらしを守り、河川の利用を促進し、河川環境を保全することを目指しています。

具体的な業務としては、洪水対策や環境保全などを目標とした計画の策定、計画に基づいて堤防などの施設や水辺環境の整備を行う事業の実施、施設が長期間健全に機能するための維持管理、洪水時に河川の状況を把握して住民に情報を発信したり、被災した施設を復旧したりする災害対応などがあります。

2. 現在の目玉施策を教えてください。

近年、平成30年7月豪雨、令和元年東日本台風、令和2年7月豪雨と、毎年豪雨災害が発生し、全国で甚大な被害が発生しています。そのため、気候変動に伴い頻発・激甚化する水災害に対応するため、河川や砂防施設などの管理者だけでなく、流域のあらゆる関係者が協働して水災害対策に取り組む「流域治水」へと政策の転換が行われています。具体的な施策として、発電や農業用の利水ダムを大雨時に治水目的で利用、水害リスクの大きい地域の開発の抑制やリスクの低い地域への移転の促進、水害リスクが的確に反映された不動産取引や水害保険などが挙げられます。



3. ご自身が担当されている業務内容について教えてください。

洪水時の河川の状況を広く発信することにより、住民の的確な避難行動を促す仕組みづくりを行っています。具体的には、河川の水位やカメラ画像、レーダ雨量、洪水予報などの情報を提供している「川の防災情報」ウェブサイトの運営や、河川が氾濫しそうな時に周辺地域への緊急速報メールの配信などを行っています。また、これらの情報を国交省が直接発信するだけでなく、民間事業者にもデータ配信を行うことで、テレビ放送や防災アプリなどの様々な媒体を通して住民に届けられるように取り組んでいます。

4. 苦労する点や、やりがいについて教えてください。

人命に直結するような重要な情報をいかにわかりやすく提供できるかが、難しくもありやりがいを感じる場所です。「川の防災情報」については、普段防災に接することのない方でも、自分に必要な情報にたどり付き、その意味が伝わるサイトである必要があります。昨年度にサイトの大幅な見直しを行い、今年3月に全面リニューアルを行いました。まだまだ改善の余地はあり、今年の洪水期に向けて、新コンテンツの作成や細かな仕様の修正などを進めているところです。

また、情報発信には、河川という専門分野は当然ながら、気象・防災などの関連分野に加え、電気通信に関する知識も必要です。いろいろ調べるのが大変な時もありますが、いい機会だと思って前向きに勉強しています（その甲斐もあって、昨年気象予報士を取得しました）。また、テレビ局、ネットメディア、携帯キャリアなど民間の方々との連携する機会も多く、行政側にはない知識や考え方に触れることも現在の業務での楽しみです。



流域治水の概念図



レーダー雨量計



5. 国交省を目指す方へのメッセージをお願いします。

河川や道路など社会の重要なインフラを現場に持ち（愛着を持ち）、様々な技術や手段を組み合わせて、様々な関係者とよりよいものを創り上げていけることが国交省の魅力だと思っています。また、入省してからの5年間で、本省2年、北海道の現場2年、つくばの研究所1年と、様々な場所・立場を経験し、専門知識の習得やプロジェクトの進め方などをいろいろ学ばせてもらいました。社会のために、自分のために、このフィールドで活躍し成長したいという方を是非お待ちしております！



ウェブサイト「川の防災情報」



水位流量観測所